



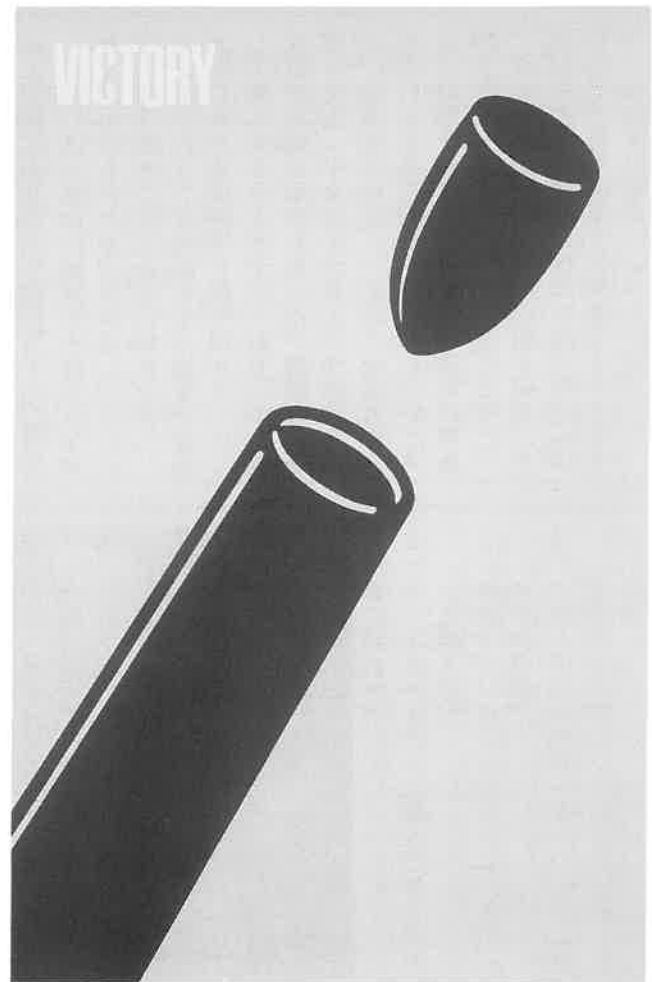
第5号  
 編集発行／碧南市  
 哲学たいけん村  
 無我苑  
 所在地／碧南市坂口町3-100  
 〒447：TEL 0566-41-8522  
 ：FAX 0566-41-7761

たとえば、戦闘機の発射の瞬間を図案化した「VICTORY」。こめられた弾がこともあろうに逆方向に放たれる。弾の先端がどちらを向いているか、それだけの些細な点にこのポスターの奇想天外な面白さがあり、命がある。それとも重大な落とし穴、とでも言おうか。

福田繁雄氏のポスター展示は昨年11月より2ヵ月間の企画展示として、瞑想回廊を訪れる人々を楽しませてくれた。

ポスターに発露するウイットに、まず私たち鑑賞者の側が驚き、福田氏の作品の世界が、単なる作品鑑賞の域をすっかり超えていることに気付かされたであろう。「見えるもの」と「見えてくるもの」という今回の企画テーマを十分「たいけん」していただけたのではなかろうか。

(第5回瞑想回廊企画展示  
 7.11.1~12.27 開催)



**第6回瞑想回廊企画展示**

テーマ 「木から現われた仏たち」  
 ～ 霊木化現仏の世界 ～

期間 平成8年5月1日～6月30日

内容 十一面観音像を主とする霊木化現仏の写真パネルと解説



またまた当村に立ち寄ったという方々にも、瞑想回廊を可能的「たいけん」の場としていただきたい。

平成8年度もこうした来村者を第一に意識して、「哲学たいけん」に根ざした企画展示を考えている。

**特集**

哲学たいけん村無我苑  
 ゆく年度、  
 くる年度

# 梅原猛名誉村長 新春特別講演会

▼平成8年1月28日

1月28日に開催された恒例の新春特別講演会は、「良渚遺跡（りょうしゅいせき）の発掘―隠された古代稲作文明」を演題に、先生が現在取り組んでおられる遺跡調査の経緯を語るものであった。年一回しかない。とあって、新春の講演会は熱心な聴講者にとっても待遠しい年中行事、ではなからうか。

当日はここ碧南市に広く愛知県下から聴講者が集まり、回収されたアンケートの感想を拝読するかぎりでは、これ以後も年々、聴講希望者が全国規模で拡大していく兆しを感じさせる。

村長ご持参の貴重なスライドは、古く



中国文化和文明とに触れる機会を与えてくれた。途中、笑いの出るユーモアもあり、その脚色の豊かさは、これまでのどの講演会をとってみても定評がある。今回のご参加を逸した方、または、はじめてという方でも、次回の新春特別講演を聴講してみたいかがだろうか。村長の講演は受け皿が広く、どなたにも楽しんでいただけるに違いない。

## 講座まなぶ

### 女性のための 哲学入門講座

▼平成7年4月～平成8年2月

前期・後期の哲学講座に加え、新たに試みられた「女性のための哲学入門講座」。1年間に渡る長期の講座を女性だけを対象に始めたものだが、それ故に、これまでの哲学講座に見られない特色があったように思う。女性的な生活感覚や意識、共感しあえる体験等を折り混ぜて、かつして難しくなりすぎず、お互いの意見交換が可能な場でもあった。講師の加藤博子先生（中京女子大学人文学部講師）が、毎講座の始めに、前回の受講者の意見資料を全員に配って、それについて考える時間をくれたことは、受講者の積極的な参加をおおいに促してもいた。

さて、この好評な講座に引き続き、8年度も加藤先生を講師にお迎えし、「はじめの哲学講座」を開催する。カリキュラムは次の通りになっている。



主テーマ

## 『ソフィーの世界』

で学ぶ哲学史

各回の講義テーマ

- 1、導入
- 2、神話・運命【神話とソクラテス以前の自然哲学】
- 3、ソクラテス・アリストテレス【ギリシアの哲学】
- 4、ヘレニズム・中世【古代とルネサンスのはざま】
- 5、ルネサンス・スピノザ【自然科学と懐疑の哲学】
- 6、ロック・啓蒙主義【経験主義から革命の時代へ】
- 7、カント・ヘーゲル【観念哲学とロマン主義文学】
- 8、キルケゴール・フロイト【ニヒリズムと無意識】
- 9、わたしたちの時代・ビッグバン【現代の哲学へ】
- 10、総括

## お茶のいただき方教室 茶の湯文化講座

▼平成8年2月

2月には、2つの催しがあった。どちらも、お茶の世界を「たいけん」するたためのもの。「いただき方教室」の方は、茶の「もてなし」の世界への導入、「文化講座」の方は、更に奥深い知識の世界を広げた。

「お茶のいただき方教室」は、安吾館及び涛々庵で毎年2月の寒い夜、開講している。亭主、客の心得、にはじまって略盆立、茶会の作法、そして最後のしめくくりは無我苑主催「涛々庵茶会」への出席。人気のこの教室は毎年、開催を予定している。

2月18日(日)は、講師に中村昌生先生



（茶の湯文化学会会長、市民茶室「湧々庵」考案者）をお招きしての講座を開催した。世俗と断絶した茶の湯の境地を先生はどのように追究なさっておいでなのか。茶道雑誌「淡交」の冒頭には、このように記されている。

「茶室を勉強しはじめていつの間にか数年が経ちました。茶の湯の空間の、何か不思議な魅力の虜となつて、それらを生み出した茶匠や工匠たちの創造の秘密を探り当ててみたい、と思い立ちました。その秘密の中から日本建築における不易の道理のようなものを発掘できるように思えたからです。」（「茶室研究事始」淡交 1月号より）

今回の講演の中で、先生の言葉のはしりには、そんな「茶室の魅力」が語られていた。演題「茶室の思想」の中で述べられた建築史家としての視点、つまり日本の茶室の構造が、どのような形で茶の文化や思想を反映しているかが、素人側にも尽きない魅力として感じられる講座であった。

## 哲学講座

年に2度ある前期、後期の哲学講座は今年度、とみに市外からの意欲的な受講者数が増し、その人気はまさに上昇中。前期は「文化の問題」、後期は「日本の「いろ」」をメインテーマに、バラエティに富んだカリキュラムですすめられた。講義テーマ、講師名は次のとおり。

### 平成7年度 哲学講座講義テーマと講師名

講義テーマ	講師名（敬称略）
主テーマ「文化の問題」	
文化を考える	久野 昭（中京女子大）
文化と子ども	棚橋美代子（中京女子大）
文化を読み解く	天野 雅郎（和歌山大）
文化の哲学	中埜 肇（岡崎学園国際短期大）
主テーマ「日本のいろ」	
日本の地名と「いろ」	寄藤 昂（中京女子大）
瓦のいろいろと「いろ」	樫山 善久（丸栄陶業株）
仏教美術における金色と彩色	安藤 佳香（中京女子大）
日本のいろいろな「いろ」	久野 昭（中京女子大）

### 『受講者の声』

● 落ち着いた静かな環境の中で、勉強させていただき、たいへん幸福でした。私たちは平常忙しい、忙しい、と言っているが、物事を表面的にしか把握できない場合が多いのですが、物事を根源的に探ったり、考えたりする勉強をさせていただき、有り難く思います。具体的な事物を通して思考する勉強にも触れ、喜んでおります。

● 今までに疑問に思っていたことの答えがあり、自分なりですが、少し開眼できた気がして幸福感で一杯です。今回の文化のテーマで最終的にはこれからの人類（日本の民族）の在り方という大きなねらいがあった、この久野先生のお言葉に感銘いたしました。

● 日常生活でいろいろ「いろ」に関わりながらいかに無関心、と申しますが、

何気なく過ごしてしまっていることに、改めて目を向けることの大切さを知りました。明日からの生活で自分の身近なまわりをもう一度見なおす気持ち、また旅行の機会にその土地の風土をもう少し深く見る、又、京都へはよく行くので、仏教文化、仏像の色から知ったこと、もう一度見なおしたいと思っています。



### 想廊展 画 展 画 企

「土との対話」  
地元陶芸家による作品  
陶芸作品展

▼平成7年10月5日  
10月29日

碧南文化協会陶芸部の出品による「陶芸作品展」は、瞑想回廊の展示として地元作品を扱う初めての試みであった。安吾館立礼茶席での呈茶用茶器として日頃より作品を寄付いただいている縁をもとに、「土との対話」という哲学との接点を生かすことができた。これからの

哲学たいけん村が、より一層生活者のレベルで結びつきをもっていけると良い。今、たいけん村の果たす「役割」を、いろんな角度で試し、模索する時期にある。

## 新春花飾り展示

▼平成8年1月6日  
1月30日

安吾館での略式呈茶（立礼茶席）で、お茶を楽しむ折り、お軸の下にある茶花は、お菓子とともに愛でる季節感の象徴でもある。この「お花」は元無我苑主である故伊藤証信氏とのゆかりがある原田ちよ子さんがお世話してくださっている。

1年間、カメラにおさめてきた花の記録をパネルにして、今年も「新春花飾り展示」を開催した。原田さんの飾る無我苑のお花は、昔はごく身近な野辺の植物であったろうが、最近では、そうも言えなくなりつつある。無我苑の随所に飾られたお花を、ここを訪れる人たちに楽しんでほしい、というのが原田さんの毎年の願いであると思う。

### 報 信 & 情 通

平成8年度  
碧南文化協会茶道部  
湧々庵茶会

開村以来続けている無我苑主催の「湧々庵茶会」は毎月第4日曜日（12月のみ

平成 8 年度「涛々庵茶会」席主表 (平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月)

月・日	氏名 (茶名)	流派	月・日	氏名 (茶名)	流派
4.28	小沢わさ子(宗和)	松尾流	10.27	石原 応順(宗応)	裏千家
5.26	小笠原美美(宗文)	久田流	11.24	岩月みつ江(宗偏)	宗偏流
6.23	磯貝 勝代(宗代)	裏千家	12.15	水野二三四(宗慶)	裏千家
7.28	山田 昇(宗昇)	裏千家	1.26	樅山しづ子(宗清)	松尾流
8.25	杉浦 とめ(宗登)	久田流	2.23	杉浦 伸子(宗伸)	裏千家
9.22	小笠原 利(宗江)	裏千家	3.23	出口巳喜代(宗巳)	表千家

第 3) を周期に定着し、市民はもとより遠方からの来苑者にも利用いただいている。特に 7 年度からは、席主のご協力を得て、立礼席をさらに一席もうけることができた。お茶を全く知らない方でも立礼席から、次回は本格的なお手前のある席へと、何か目標と楽しみを持っていただけるに違いない。お茶の世界を茶人に限らず広く皆さんのものとしていけることが、この市民茶室「涛々庵」を建てた本来の目的である。

平成 8 年度の涛々庵茶会は、次のとおり予定している。

# 本 の 情 報

## ● PHP 研究所

### 『哲学への回帰』

資本主義の新しい精神を求めて  
稲盛和夫 梅原 猛

日本人の新たな指針。混迷の現代に  
説く、白熱の対論!

良渚遺跡(りょうしよいせき)調査の  
資金援助者である京セラ会長、稲森和夫  
氏と、遺跡調査団、日本側総団長である  
梅原猛先生との対話が、ここに実現。

## ● 講談社

### 『茶の庭』

恒成一訓 写真、中村昌生 文

畿多の茶匠たちが創造した茶の庭。露  
地。今日まで伝わる作庭様式を 3・千家  
はもとより各流派家元の協力を得て、茶  
の湯の空間に溶け合うわびの名席を紹介  
する。

## ● 以文社

### 『哲学論文集』

久野昭教授還暦記念  
竹市明弘 金田 晋 編

「女性のための哲学入門講座」でお馴染みの加藤博子先生を含め、23 人の学者によるアカデミックな論文集。  
序文は梅原猛先生。

## 無我苑記念スタンプ 設置のお知らせ



碧南市哲学たいけん村  
無我苑

平成 8 年 1 月より、瞑想回廊入り口に  
電動式スタンプが設置された。来苑者が  
持ち込みの白い郵便はがき等に押し、  
お友達へのお便りにするのも面白いだろ  
う。

無我苑備え付けのスタンプ台紙には、  
中に「自分をみつめる」手がかりとして、  
キーワード的な単語が 50 音順に並んでい  
る。大人から子供まで、誰でも活用でき  
るスタンプ、ご来村記念にどうぞ。

## 来村者の声(アンケートより)

● 静かで落ち着きがあり、心がたいへん  
落ち着く。我を振り替えることができる  
数少ない場所のひとつである。  
(市外 学生)

● 精神的な健康に着目された点は時代の  
先取りでとても素晴らしいと思った。  
(市外 女性)

● 建物の造り、瓦葺きの池、コンクリの  
壁、どれもユニークでたいへん素晴らし  
い。事務の人も優しいし、日常と切り離  
された雰囲気でも落ち着く。いろいろ考  
えることが出来て、いい空間だ。まだ悟  
てないけど。  
(新潟県 会社員)

● その時、その時に一人ひとりがした「  
たいけん」を共有する場があれば面白い  
かもしれない。例えば、ひとつのテーマ  
についてそれぞれが、どう感じ、どう想  
ったのか等を軽く出しあう場があったら  
どうだろうか。  
(吉良町 男性)

● 文化レベルの低い中部圏の施設とは思  
えないハイレベルの施設だと思います。  
私は美術をやっているせいか建物の素晴  
らしさにまず驚きました。正直言って地  
方では一般受けはしにくい性質の施設だ  
ろうとは思いますが、本当に個性的です  
ばらしいと思います。今後もぜひレベル  
を落とさず、存続させていって頂きたい  
です。  
(岐阜県 公務員)